

沖縄キリスト教短期大学
2018年度 前期
授業評価アンケート結果報告書

2018年10月10日

IRセンター

はじめに

2018年度前期の授業評価アンケートを7月に実施し、73科目、145クラスについて分析を行った。分析に供された評価表は、3,909件であった。評価は5段階法を採用しており、1点から5点の範囲で、5点を最高の評価としている。ただし、質問6、8においては、各数値に時間、割合をそれぞれ配置している。

学生による数値的回答による評価と自由記述による評価の2点についてみていく。

【文章内の表・グラフについて】

報告書内に記載の表やグラフは、次の1、2のことを踏まえて作成しています。

1. 短大の全ての授業を総合した評価を「全学科」、各科・系の授業を評価したものをそれぞれ「総合教育系」「英語科」「保育科」として、回答（選択肢）の割合（%）を表で示した。
2. 1で述べた回答（選択肢）割合を、積み上げ100%横棒グラフで示し、「選択肢4及び5」と回答した割合について前年度同期との差分を横棒グラフで示した。

1. 数値的回答による評価

学科名：全体	73 科目 145 クラス	回答数：3,909
--------	---------------	-----------

▼ 全学科

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3902	2553	977	339	27	6	4.55	.694
	2. 授業を乱す行為をしない	3903	2553	923	368	43	16	4.53	.744
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3902	2388	1058	393	40	23	4.47	.764
	4. 積極的な参加	3903	2326	1060	461	45	11	4.45	.766
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3887	1989	1116	625	108	49	4.26	.912
	6. 予習及び復習の合計時間	3893	373	252	621	1315	1332	2.23	1.252
	7. 遅刻はない	3876	2796	560	299	145	76	4.51	.930
	8. 授業における出席状況	3891	1702	1283	608	218	80	4.11	.996
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	3902	2376	1004	431	69	22	4.45	.801
	10. 適切な授業の開始・終了時間	3899	3011	650	200	31	7	4.70	.618
	11. メリハリのある授業の進め方	3901	2794	760	273	57	17	4.60	.721
	12. 理解や興味を引き出す工夫	3902	2560	864	387	66	25	4.50	.792
	13. 教員としての相応しい発言や態度	3901	2914	673	253	44	17	4.65	.692
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	3903	2667	835	330	55	16	4.56	.741
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3901	2794	736	286	61	24	4.59	.745
	16. 適切な授業の進度	3902	2818	725	297	48	14	4.61	.712
	17. 学んだという達成感	3902	2576	871	352	72	31	4.51	.798

質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

質問 6 「予習復習の合計時間」を除いた 16 個の質問において平均値は 4.1～4.7 であった。前回調査時 (2017 年度後期) に続き、今期の授業に対する学生の評価は高いといえる。

予習・復習時間についての質問 6 の平均値は 2.23 と低い。0 時間とする割合は 34.2%であったのに対し、2 時間以上 (選択肢 3、4、5 の合計) は 32.0%であった。しかし 3 時間以上 (選択肢 5 のみ) は 9.6%と 10%未満である。例年の課題として、予習及び復習時間、いわゆる授業外の学習時間の短いことが挙げられる。個々の学生に学習時間を増やすように呼び掛けたとしても、勉強しない習慣や状況をすぐに変えることは難しい。そのため学生の自学自習を促す取り組みを、初年度から全学をあげて計画的に実施していくことが必要であろう。

授業外学習時間の短さは本学に限ったことではなく、全国の大学・短大においても大学の課題としてあがっている。授業外学習時間の確保について執筆された論文¹もある。

取り組みの特徴となるものが「出席レポート」なるもので、授業内にメモした内容をもとに、レポートを作成し、次回の授業でそれを提出することでそれが出欠表がわりとなるしくみである。受

¹ 金子 能呼 (2017) 授業外学習時間の確保とその効果に関する一考察、松本大学術紀要第 15 号

講中集中してメモがとれないとレポートが作成できない。いわんや欠席していればまったく書けないことになる。この方法には Excel や Word を使ったレポート作成や、メモをとる技術、メモの内容を要約する技術が必要になるなど様々な仕掛けが含まれている。これらの技術は社会人基礎力として重要な要素として考えられているため、この出席レポートは、いずれ社会に出るであろう学生の複数の技術を同時に鍛えるものとして期待されている。

取組の導入はさておき、目の前の学生の能力向上のために、最適な方法は何なのかを継続して模索していく必要がある。

▼全体（グラフ）

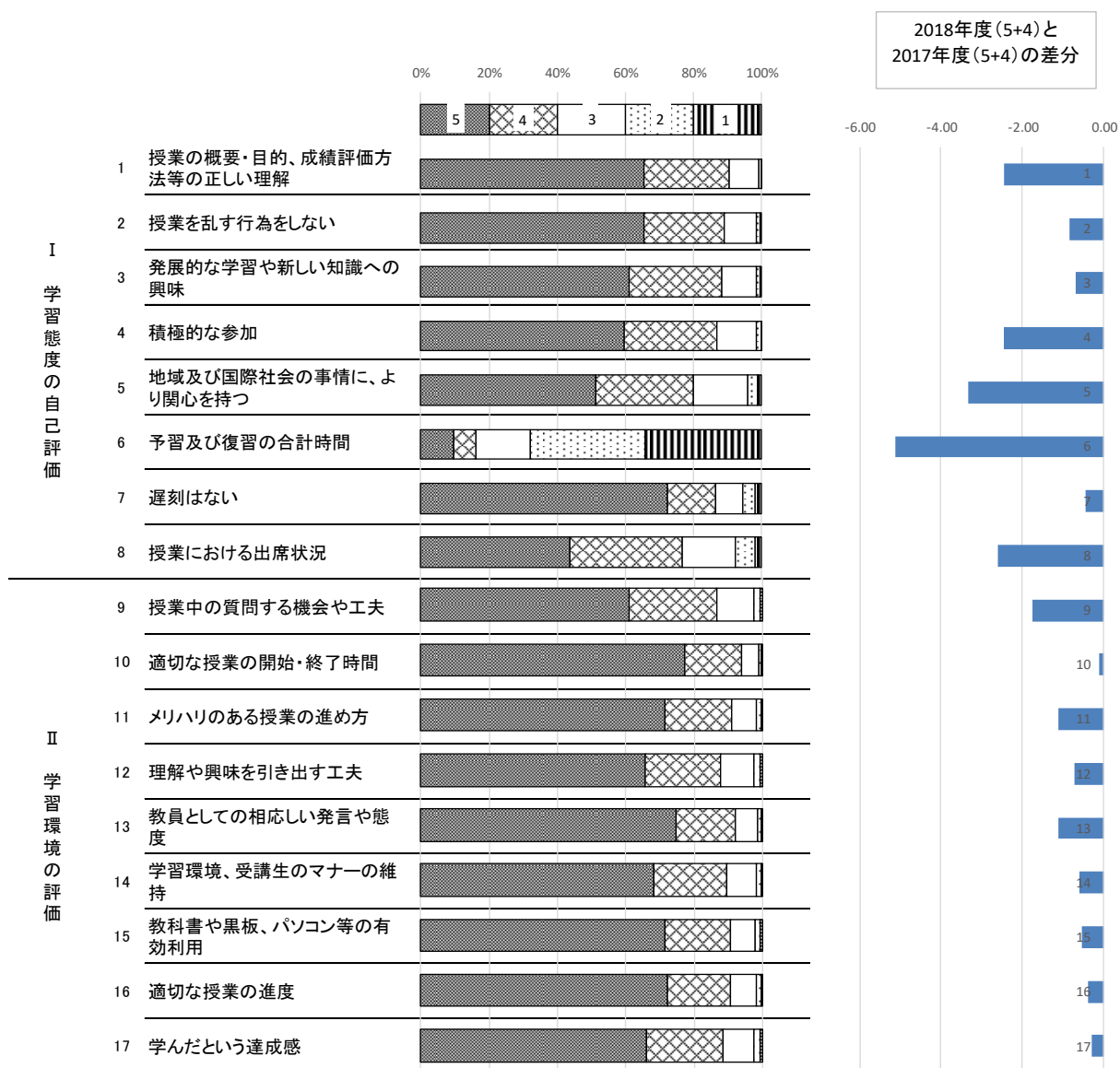


図1 各評価の割合 (全体)

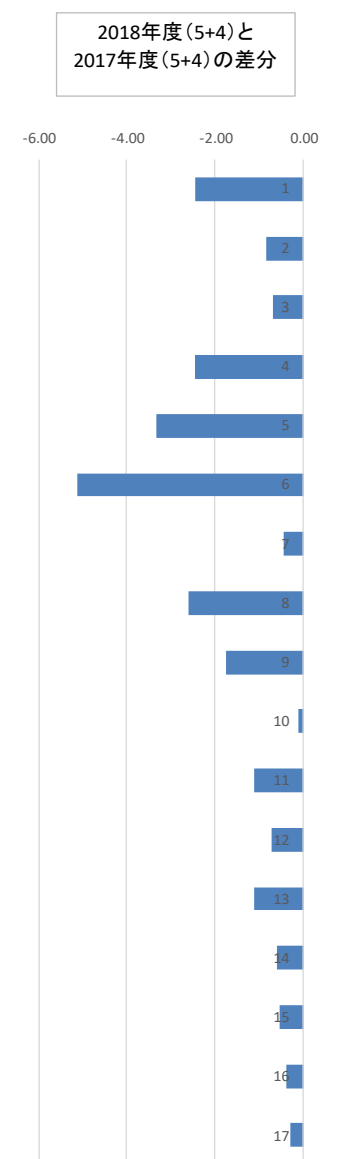


図2 選択肢5及び4の割合の前年度同期との差分 (全体)

図 1 から、質問 6、8 以外の質問において選択肢 4 及び 5（以降「選択肢 4、5」と記載）の割合が 80%以上あり、評価が高いことがわかる。図 2 の前年度同期と比較したグラフをみると、プラスに伸びる項目が全くなく、全ての項目がマイナスに伸びている。-2.0 以上の項目は 5 つあり、マイナス率が高い順に並べると質問 6、5、4、8、1 となる。これら全てが「I 学習態度の自己評価」の項目に含まれている。また、マイナス率は低いものの「II 学習環境の評価」の項目すべてがマイナスとなっており、全体的な評価の低下が確認できる。

学科名：総合教育系	14 科目 25 クラス	回答数：748
-----------	--------------	---------

▼ 総合教育系

記述統計量*

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習 態度 の 自己 評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	747	477	193	69	6	2	4.52	.718
	2. 授業を乱す行為をしない	746	523	160	54	6	3	4.60	.694
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	746	420	216	88	12	10	4.37	.853
	4. 積極的な参加	747	452	189	93	10	3	4.44	.791
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	742	337	239	126	28	12	4.16	.947
	6. 予習及び復習の合計時間	744	42	54	159	263	226	2.22	1.126
	7. 遅刻はない	742	616	76	31	10	9	4.73	.714
	8. 授業における出席状況	746	338	261	98	35	14	4.17	.955
II 学習 環境 の 評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	747	416	204	101	19	7	4.34	.873
	10. 適切な授業の開始・終了時間	746	582	115	39	8	2	4.70	.642
	11. メリハリのある授業の進め方	746	541	152	41	10	2	4.64	.674
	12. 理解や興味を引き出す工夫	747	465	172	90	15	5	4.44	.830
	13. 教員としての相応しい発言や態度	747	549	134	48	8	8	4.62	.747
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	747	505	161	69	7	5	4.54	.755
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	746	542	147	43	11	3	4.63	.697
	16. 適切な授業の進度	746	529	148	55	11	3	4.59	.725
	17. 学んだという達成感	746	450	187	81	21	7	4.41	.861

質問 6 の回答欄（⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間）

質問 8 の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

総合教育系の授業は、質問 6 以外の項目の平均値が 4.1～4.7 であり、学生からの評価は高いといえる。質問 6 は平均値 2.22 と低く、0 時間と答えた割合は 30.4%（226）であった。2 時間以上と答えた割合は 34.3%（255）であった。この割合は先述した短大全体の割合と類似している。加えて、質問 7「遅刻はない」の平均値 4.73、質問 2「授業を乱す行為をしない」の平均値は 4.60、質問 4「積極的な参加」の平均値が 4.44 といずれも高く、授業への関心度が高いことがわかる。

学習環境の評価項目のうち、質問 10「開始・終了時間」、質問 11「授業のメリハリ」、質問 13「教員のふさわしい発言・態度」、質問 15「教材の効果的な利用」において評価が高かった。これらは質問 1～8 の「Ⅰ学習態度の自己評価」と合わせて考えることで、各授業が、学生の興味関心をどれだけ喚起したかもみることができる。また前年度同期と比較することで、取り組みの違いについての検証も可能となる。

▼総合教育系（グラフ）

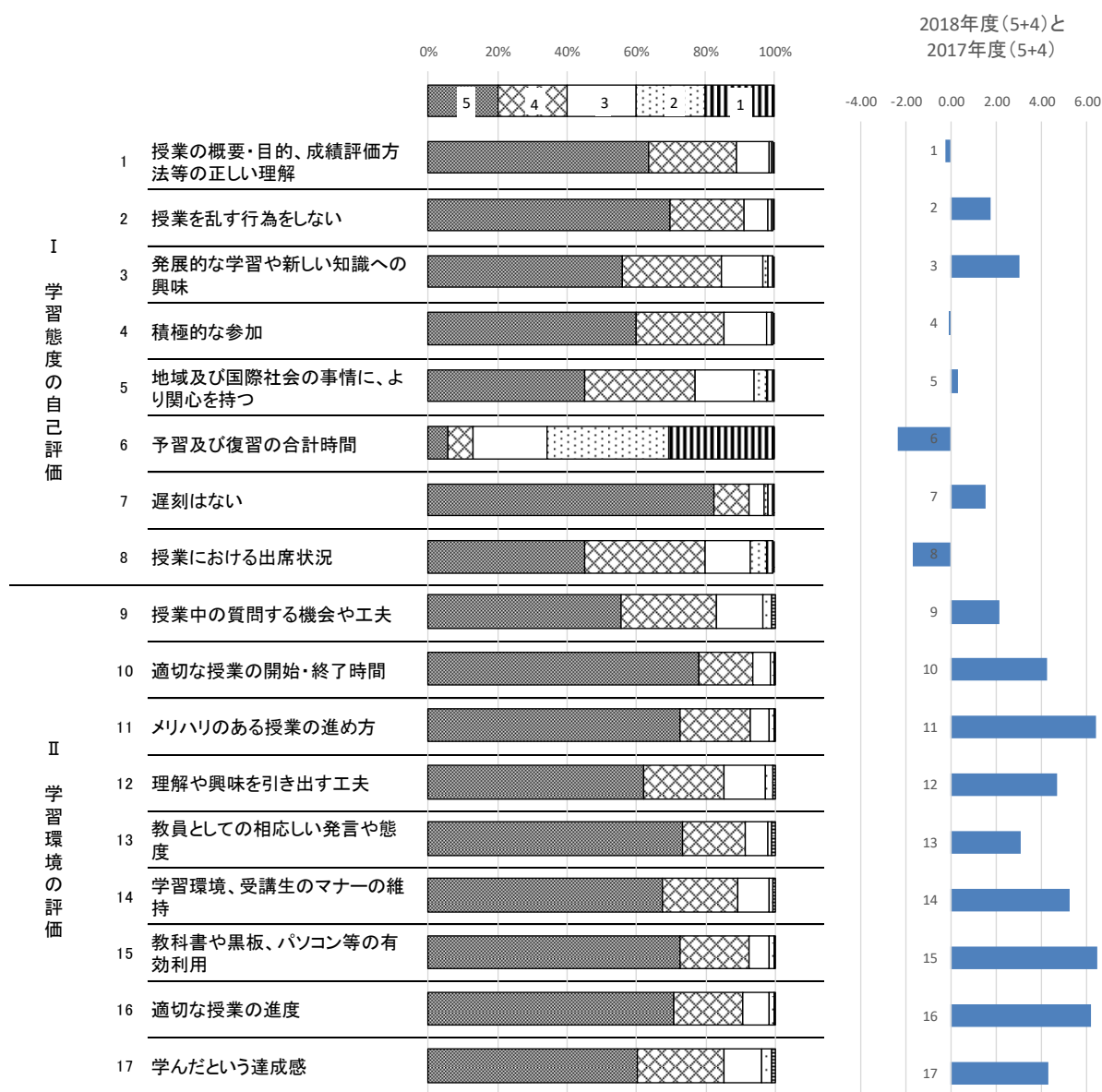


図 3 各評価の割合（総合教育系）

図 4 選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（総合教育系）

図3より、質問5、6以外の15項目において「選択肢5、4」が80%以上あり、総じて高いことがわかる。質問6の「選択肢5、4」は13%と悪く、この数値は前年度同期よりもさらに低い。このことは学生の自主学習時間が減っているということである。

図4から、多くの項目でプラスにグラフが伸びているのがわかる。+2.0%を超える項目が10項目あり、特に質問11、15、16においては+6.0%以上の伸びであった。Ⅱ学習環境の評価ではすべての項目がプラスに伸びており、明白な改善がみられる。Ⅰ学習態度の自己評価において、質問2、7では、左のグラフから見てわかるように、すでにかなり評価が高い状態にあるため、これ以上の伸びは難しいが、質問5、6、8は次年度に向けて改善の余地がある。

学科名：英語科	29科目 33クラス	回答数：882
---------	------------	---------

▼ 英語科

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
Ⅰ 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	880	564	229	77	8	2	4.53	.712
	2. 授業を乱す行為をしない	881	485	255	118	19	4	4.36	.826
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	881	514	248	103	12	4	4.43	.784
	4. 積極的な参加	881	483	255	122	17	4	4.36	.823
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	878	443	229	161	34	11	4.21	.956
	6. 予習及び復習の合計時間	877	106	82	149	306	234	2.45	1.302
	7. 遅刻はない	871	495	170	100	74	32	4.17	1.151
	8. 授業における出席状況	876	219	318	215	85	39	3.68	1.087
Ⅱ 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	880	511	250	100	16	3	4.42	.788
	10. 適切な授業の開始・終了時間	880	645	188	39	8	0	4.67	.604
	11. メリハリのある授業の進め方	881	606	185	75	11	4	4.56	.739
	12. 理解や興味を引き出す工夫	881	575	204	77	18	7	4.50	.802
	13. 教員としての相応しい発言や態度	879	646	171	52	8	2	4.65	.654
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	881	548	218	88	22	5	4.46	.816
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	880	600	195	65	15	5	4.56	.752
	16. 適切な授業の進度	881	609	189	69	11	3	4.58	.719
	17. 学んだという達成感	881	569	196	84	23	9	4.47	.848

質問6の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

質問8の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

英語科の授業は、質問6、8以外の項目の平均値が4.1以上であり、総じて評価は高いといえる。質問6は平均値2.45と低いが、「0時間」とする割合が前年度同期に比べて1.3%増加しているも

の、「2時間程度」、「3時間程度」、「3時間以上」と回答した割合がどれも増加しており、このことから授業外の学習時間は改善傾向があるといえる。

II 学習環境の評価において各項目の平均が 4.4 以上の評価であり、これらの項目における学生の満足度は高い。さらに質問 17「学んだという達成感」では平均 4.47、「選択肢 5、4」が 86.8%と高い。

▼英語科（グラフ）

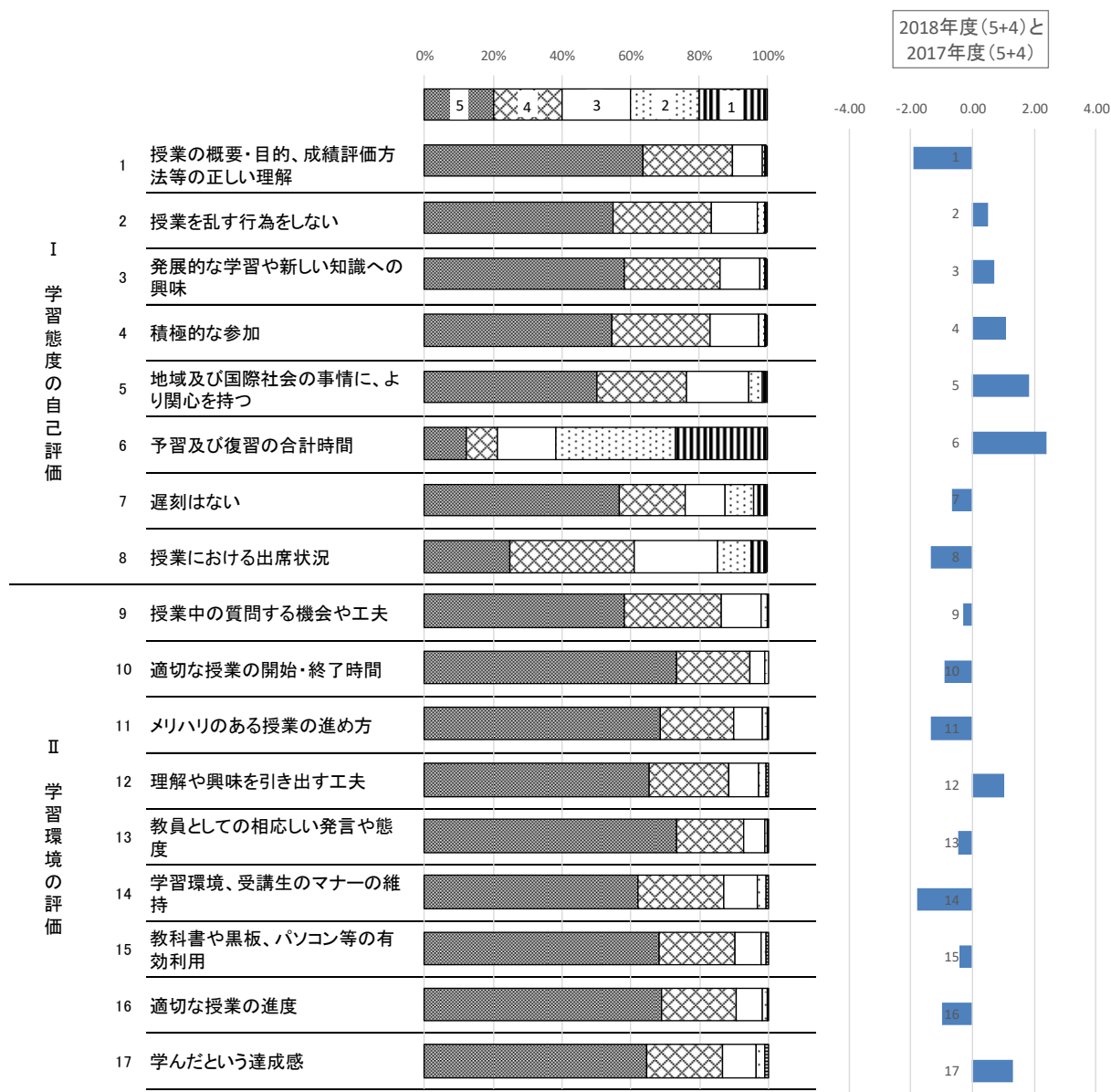


図 5 各評価の割合 (英語科)

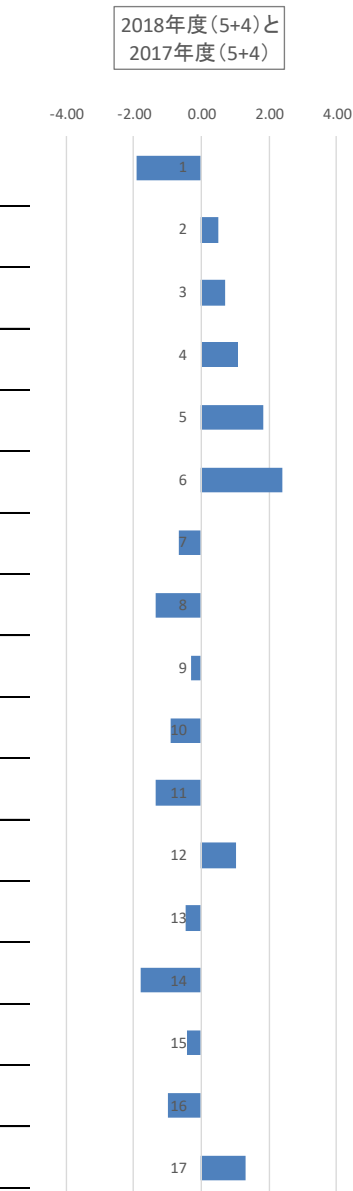


図 6 選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分 (英語科)

図5から、質問5、6、7、8以外の13項目において、「選択肢5、4」が全て80%以上であった。質問6については、19%と非常に低い数値であるが、前年度同期と比較したときには、最もプラスの伸び率が高い。逆に「Ⅰ学習態度の自己評価」の8項目の中で、最も「選択肢5、4」が大きい質問1が、前年度同期よりマイナスに伸びているのが確認できる。「Ⅱ学習環境の評価」の9項目は「選択肢5、4」が86~95%であり、学生からの評価は総じて高いといえる。

図6から、プラスの項目は7項目のうち、質問6が+2.39と最もプラスのポイントが大きいことがわかる。予習復習時間の少なさは例年の課題であり、これからも継続してプラスになることが望まれる。マイナスの項目は10項目あり、その中で質問1が-1.92%と最もマイナスのポイントが大きかった。

学科名：保育科	30科目 87クラス	回答数：2279
---------	------------	----------

▼ 保育科

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
Ⅰ 学習 態度 の 自己 評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	2275	1512	555	193	13	2	4.57	.679
	2. 授業を乱す行為をしない	2276	1545	508	196	18	9	4.57	.716
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	2275	1454	594	202	16	9	4.52	.719
	4. 積極的な参加	2275	1391	616	246	18	4	4.48	.731
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	2267	1209	648	338	46	26	4.31	.878
	6. 予習及び復習の合計時間	2272	225	116	313	746	872	2.15	1.263
	7. 遅刻はない	2263	1685	314	168	61	35	4.57	.861
	8. 授業における出席状況	2269	1145	704	295	98	27	4.25	.923
Ⅱ 学習 環境 の 評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	2275	1449	550	230	34	12	4.49	.778
	10. 適切な授業の開始・終了時間	2273	1784	347	122	15	5	4.71	.615
	11. メリハリのある授業の進め方	2274	1647	423	157	36	11	4.61	.728
	12. 理解や興味を引き出す工夫	2274	1520	488	220	33	13	4.53	.774
	13. 教員としての相応しい発言や態度	2275	1719	368	153	28	7	4.65	.687
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	2275	1614	456	173	26	6	4.60	.701
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	2275	1652	394	178	35	16	4.60	.758
	16. 適切な授業の進度	2275	1680	388	173	26	8	4.63	.705
	17. 学んだという達成感	2275	1557	488	187	28	15	4.56	.751

質問6の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

質問8の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

保育科の授業は、質問 6 以外の平均値が全て 4.2 以上であり、概して評価は高いといえる。しかし質問 6 において 0 時間と回答した割合は 38.4%と高く、例年の課題である授業外学習については、改善はみられない。他の 16 項目については、評価は高く、特に質問 1、2、7 は平均値が 4.57 と高い。「Ⅱ 学習環境の評価」の 9 項目は全ての項目において 4.4 以上と高い数値であった。教員による学習環境への配慮や工夫が数値に表れている。

▼保育科（グラフ）

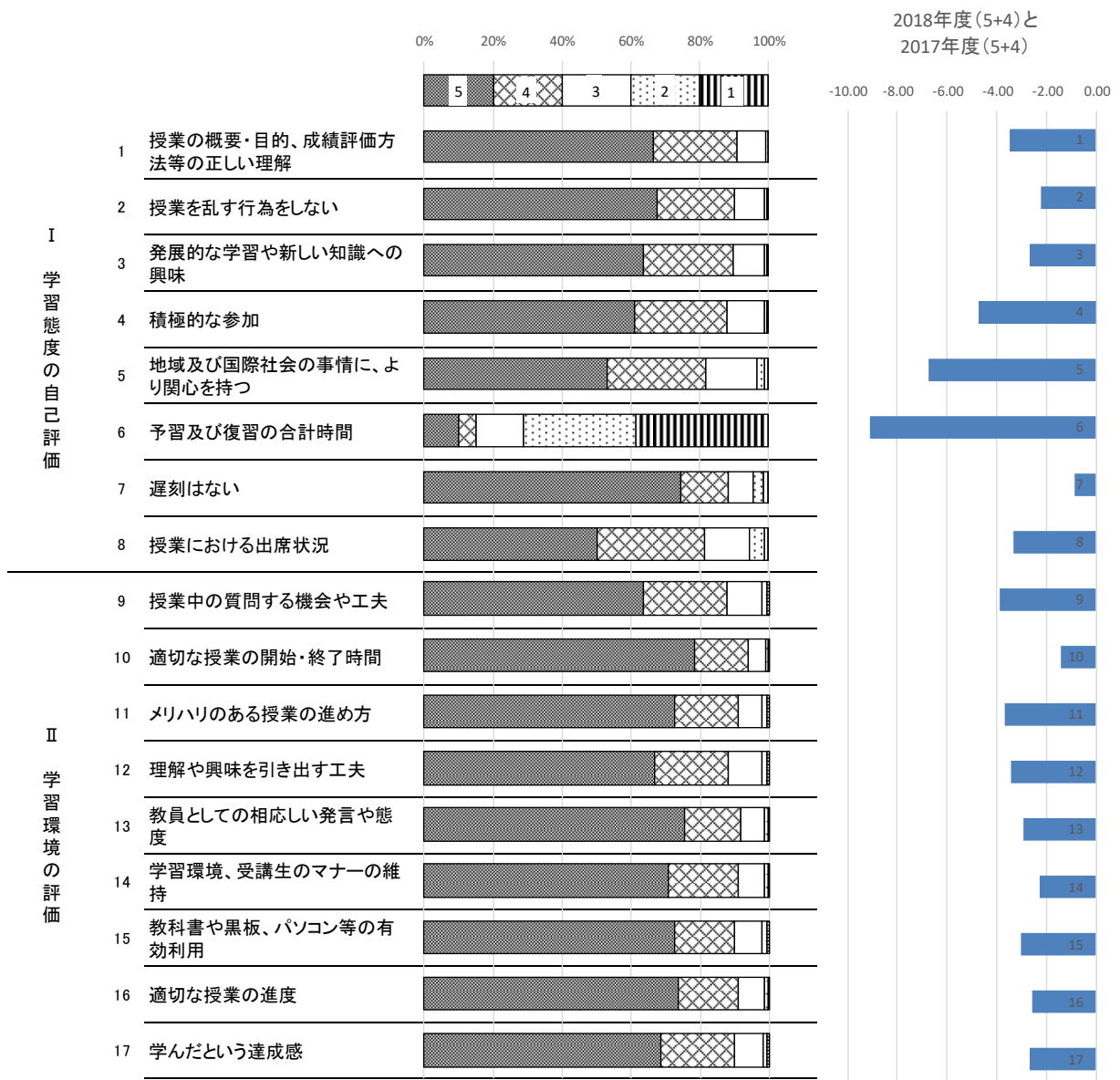


図 7 各評価の割合 (保育科)

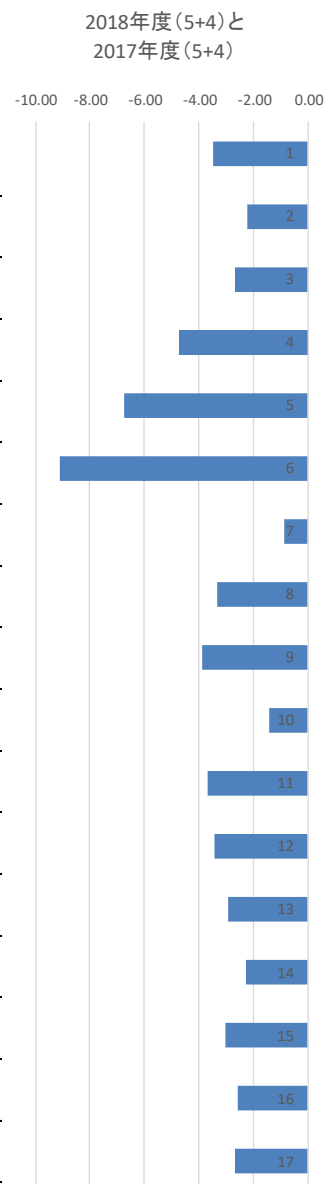


図 8 選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分 (保育科)

図7から、質問6以外の16項目において「選択肢5、4」が80%以上であり、さらに10項目においては90%以上と高い割合であった。質問17の「学んだという達成感」では選択肢5と回答したのが68.4%であった。特に実技、実習系の科目に多くみられる。これらは実際に体を動かしたり、参加型の授業であったり、目指す職業と直接関連すると感じられるなどの特徴がみられる。それ以外の知識修得型の授業においても満足度が高い授業があり、今後の授業改善の参考になるのではないかと思う。

図8から、前年度同期と比較してプラスの項目がなく、すべてマイナスに伸びているのがわかる。マイナスの伸び率が最も小さいのは、質問7の-0.89%で、最もマイナスの伸び率が大きいのは、質問6の-9.11%であった。今まで、保育科は毎回数値が上がる傾向にあったため、今回のような結果は意外であるが、これについては個々の教員はもちろん、学科全体での振り返りも必要と思われる。

今回の授業評価の分析より、次の2点が挙げられる。

1. 学科・系での振り返り

全体の結果より、前年度同期と比較して「Ⅰ学習態度の自己評価」「Ⅱ学習環境の評価」のどちらもマイナスの伸び率がみられるが、総合教育系では「Ⅱ学習環境の評価」の項目でプラスの伸び率が大きく、英語科では「Ⅰ学習態度の自己評価」のプラスの伸び率があり、保育科は全体的なマイナスの伸び率がある等、各学科・系により昨年度からの変化が異なっている。学科・系における振り返りが大変重要と思われる。

2. 学生の積極性（やる気）の要因

数値的分析からも、次ページ以降に示した自由記述からの分析によっても、授業の理解度が教員による多大な授業準備や工夫に支えられていることがわかる。しかし、高等教育機関として、また人材育成という観点から、学生が積極性をもって授業に挑む姿勢を育むことも大切である。そのため、学生の積極性への要因を探るために質問の見直しを今後進めていかなければならない。

学生の皆さんには、このアンケート結果を自身の勉強スタイルと比較して、今後の大学生活の見直す材料としてぜひ活用してください。また、教員からの学生に対するフィードバック（コメント）もぜひ確認してください。

教員の皆さんは、この結果を毎年度、毎学期の授業の振り返りの参考資料としていただければと思います。

2. 自由記述による評価

今回、学生の自由記述について、テキストマイニングにより単語の出現頻度、共起キーワードを示すことで、学生の授業に対する考えを視覚化した。今回は「授業評価アンケート」に対する記述のため、「授業」「先生」という単語は当然頻出するものとして、その他の単語について着目する。

単語の出現頻度：文章中に出現する単語の頻出度を表にしたもの。「スコア」の大きさは、文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。

共起キーワード：文章中に出現する単語の、出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共起²の程度が強い語ほど太い線で描画されます。

【総合教育系】

< 単語の出現頻度 >

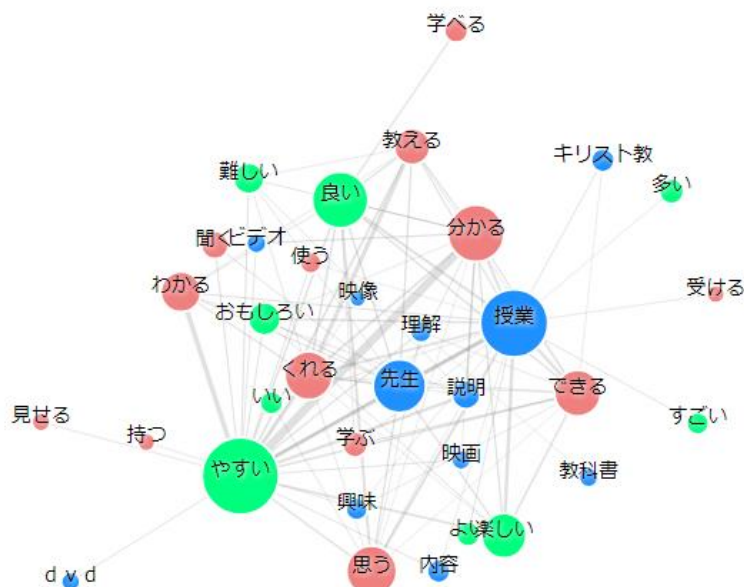
■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
授業	122.21	120	分かる	26.67	76	やすい	66.49	112
先生	35.17	87	思う	2.40	65	良い	9.03	75
説明	13.12	33	くれる	4.51	61	楽しい	11.08	55
キリスト教	48.89	22	できる	3.11	58	おもしろい	24.68	34
内容	4.76	22	わかる	26.12	47	難しい	8.15	31
興味	4.06	19	教える	7.89	40	ほしい	2.05	20
理解	3.87	18	聞く	1.50	25	多い	1.19	20
ビデオ	8.70	14	学ぶ	8.37	21	よい	0.95	19
映画	1.33	14	学べる	18.75	18	いい	0.19	17
教科書	7.15	13	使う	0.37	14	すごい	0.66	15
プリント	6.79	12	感じる	0.84	12	むずかしい	31.40	13
パソコン	1.86	12	すぎる	0.21	12	ない	0.07	12
勉強	0.86	12	話す	0.98	11	面白い	0.69	10
d v d	1.96	12	見せる	0.95	9	優しい	1.18	10
テスト	1.34	10	考える	0.21	9	たのしい	1.17	7

右側に表示される形容詞群において「～やすい」「良い」「楽しい/たのしい」「おもしろい/面白い」「難しい/むずかしい」という単語が頻出していることがわかる。中央の動詞群では「分かる/わかる」「思う」「くれる」「できる」が多い。全体的に肯定的な単語が多く、これらが「授業」や「先生」

²共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。

について語っていることがわかる。名詞群では、他に「説明」や「基督教」「内容」等が頻出し
ており、本学の特色といえる基督教を含む、授業の内容について肯定的な評価が多い。

<共起キーワード>



「授業」と「先生」はもちろんだが、「説明」「理解」「興味」という単語も見られる。「～やさしい」「～くれる」「～できる」「分かる」の共起が強く、学生も教員の授業準備について評価しているのがわかる。

【英語科】

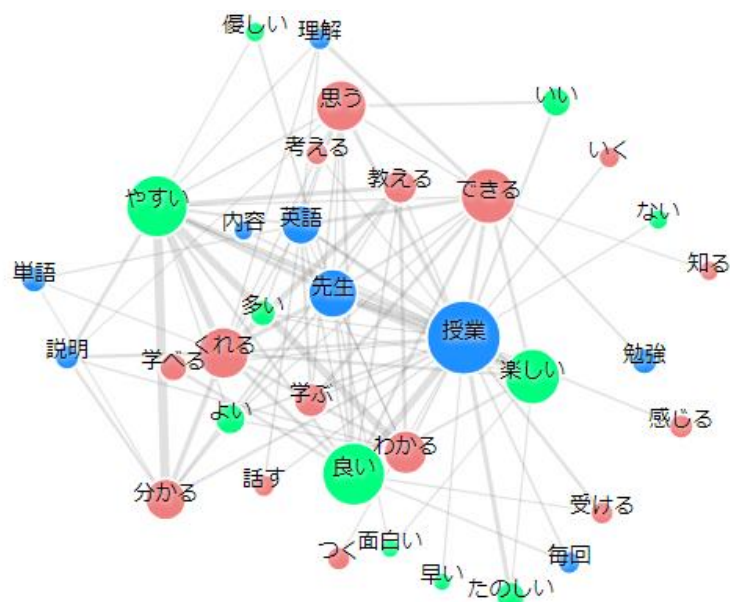
<単語の出現頻度>

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
授業	118.73	118	できる	3.90	65	良い	9.50	77
先生	22.11	68	くれる	4.22	59	やさしい	31.74	75
英語	20.58	49	思う	1.92	58	楽しい	15.29	65
勉強	3.09	23	わかる	25.11	46	よい	1.77	26
単語	18.42	23	分かる	8.58	42	いい	0.37	24
説明	5.08	20	教える	5.12	32	たのしい	11.25	23
発音	15.52	18	学ぶ	18.25	32	多い	1.07	19
理解	3.47	17	学べる	26.35	22	ほしい	0.63	11
毎回	6.82	17	感じる	1.49	16	優しい	1.18	10
課題	4.15	15	つく	1.11	15	ない	0.05	10
文法	19.69	13	考える	0.50	14	むずかしい	18.00	9
テスト	2.23	13	受ける	1.61	14	面白い	0.44	8
将来	4.19	13	話す	1.37	13	早い	0.17	7
内容	1.46	12	使う	0.27	12	すごい	0.14	7
質問	1.53	11	いく	0.24	12	新しい	0.14	5

右側の形容詞群では「良いよいいいい」「～やさしい」「楽しいたのしい」が非常に頻出している。中

中央の動詞群で、「できる」「～くれる」「わかる/分かる」という単語が続く。「学ぶ/学べる」は出現頻度も多く、文章中特徴的なワードとしてスコアも最も高い。左側の名詞群では「英語」「勉強」「単語」が出現しており、英語の授業において積極性や達成感がみられる。

<共起キーワード>



「授業」「先生」以外では、「英語」の名詞が「分かる/わかる」「～やすい」「良い/よい」と共起が強い。抽象的な単語の共起が強く、その他の名詞との共起が少ない。

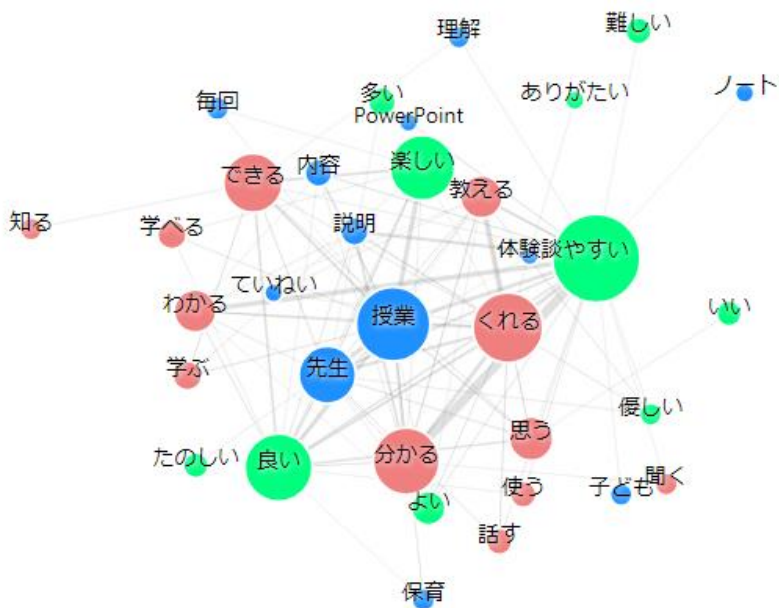
【保育科】

<単語の出現頻度>

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
授業	350.68	226	くれる	33.13	169	やすい	225.19	223
先生	108.95	161	分かる	102.00	157	良い	39.77	161
説明	30.42	52	できる	16.46	135	楽しい	75.99	152
内容	21.75	49	思う	4.38	88	よい	8.86	59
保育	47.93	33	わかる	73.90	84	多い	4.66	40
毎回	23.05	33	教える	32.51	84	難しい	10.85	36
勉強	5.52	31	学ぶ	32.43	44	たのしい	21.75	33
理解	9.63	29	学べる	81.10	44	いい	0.66	32
子ども	14.00	29	話す	9.35	35	ない	0.51	32
現場	11.74	28	使う	2.30	35	ほしい	4.84	31
講義	20.09	27	聞く	1.50	25	優しい	6.46	24
ピアノ	16.04	23	知る	1.61	24	おもしろい	11.20	22
実習	33.06	22	書く	1.79	23	ありがたい	5.17	14
体験	9.13	22	考える	0.82	18	面白い	1.16	13
絵本	24.45	20	聞ける	12.21	18	すごい	0.36	11

保育科は、左側の形容詞群では「～やすい」「良い/よい」「楽しい/たのしい」「多い」が、中央の動詞群では「くれる」「分かる/わかる」「できる」が頻出している。中央の動詞群では「～くれる」「分かる/わかる」「～できる」が多い。また「学べる」の単語もスコアが高く、文章中に多く表われているのがわかり、本学での授業の意義を認識している。左側の名詞群では「授業」「先生」以外の単語は多様だが、頻度は低い。その中でも「説明」「内容」が多く、「保育」はスコアも高い。また、「子ども」「ピアノ」「絵本」等、保育に直結する単語が多くみられる。

<共起キーワード>



「～やすい」という単語と共に「～くれる」「分かる/わかる」が共起が強い。またその近くに位置する「体験談」と「説明」が強い共起があり、体験談を通した説明が授業で多用されていることがわかる。「分かる」と「～くれる」が強い共起があることから、教員による授業準備が学生の理解に貢献していることを認識していることがわかる。